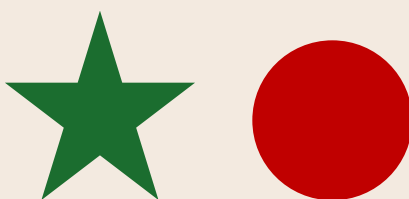


日本における エスペラント受容



IACS Symposium, The Reception of Esperanto in Japan

2022. 11.12 (Sat.) ★ 14:00～17:30
@本部棟206 & Online (Zoom)

ポーランド出身のユダヤ人であるラザロ・ルドヴィコ・ザメンホフが1887年に国際共通語として提案し、民族や国家を超えた中立の言語として現在でも多くの支持者を得ているエスペラント。本シンポジウムではこのエスペラントがどのように日本社会に受け入れられ、どのような活動を成してきたのか、エスペラントが過去から現在までどのように受容されてきたのかを学ぶことを目的としている。第1講演としては、言語学者である後藤斉先生（東北大学名誉教授）をお招きして、「日本におけるエスペラント受容」についてご講演いただく。第2講演では、エスペラント翻訳の紹介として、企画者である園山千里が彦坂本輔訳『女の運命』（東亜堂、1914年）を紹介する。

★講演1 「日本におけるエスペラント受容 –いくつかの事例をとりあげて–」
後藤斉（東北大学・名誉教授）

★講演2 「ポーランドの作家・オジェシュコヴァ『マルタ』の日本語訳
『女の運命』について」園山千里（国際基督教大学・准教授）

【日時/Date】2022年11月12日（土）14:00～17:30

【会場/Venue】国際基督教大学本部棟206またはオンライン（Zoom）

【言語/Language】日本語 / Japanese

【参加登録/Registration】要事前登録（下記のURLまたは右のQRコード）

<https://forms.gle/A5F2X46BKzPimNVp9>

